

有害プランクトン注意報

(H26 No.1 - ①)

平成 26 年 6 月 3 日
千葉県水産総合研究センター

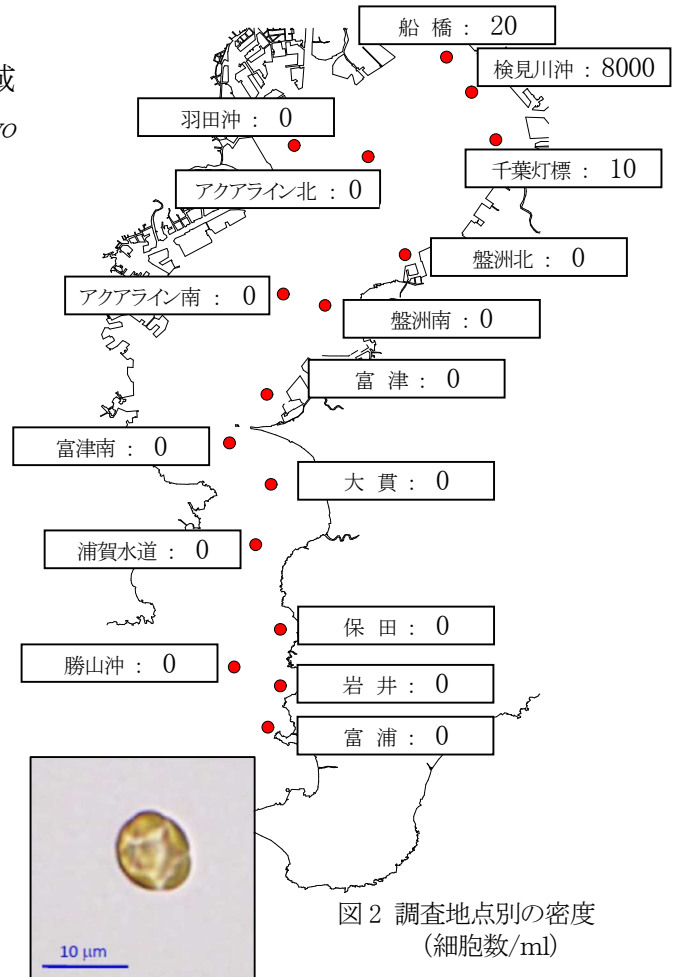
東京湾内湾の北東部の海域で、ヘテロシグマ属のプランクトン (*Heterosigma akashiwo*) が、注意を必要とする基準を超える密度で確認されました。

平成 26 年 6 月 2 日の調査において、有害プランクトンの *Heterosigma akashiwo* (ヘテロシグマ属) が確認されました。

今後、増加する可能性がありますので、養殖魚・蓄養魚の管理には十分注意してください。

- ・ 確認日 平成 26 年 6 月 2 日
- ・ 確認海域 東京湾内湾北東部海域
- ・ プランクトンの種類 *Heterosigma akashiwo*

注意基準を超えた調査地点	プランクトン密度 (細胞数/ml)
検見川沖	8000
注意基準密度	1000
警戒基準密度	10000



- 1 本種は楕円形をした小さなプランクトン (10~30 μm) で、2本の鞭毛を持ち、回転しながら泳ぎます (図1)。出現時期は春~秋で、梅雨の時期には赤潮を形成することがあります。
本種が、海水 1ml あたり 10,000 細胞以上に増えると、生簀の養殖魚が死亡することがあり、数日停滞した場合には天然魚にも被害が及ぶことがあります。
- 2 内湾北東部の一部の海域で密度が高くなっています。また、千葉港内などでも密度の高い場所が見られています (図2)。
- 3 海況の変化や魚の動きに十分注意し、必要に応じて餌止め等、早めの対応をお願いします。
- 4 赤潮等、海域の異変を発見した場合は水産総合研究センター、漁業資源課又は水産事務所に連絡してください。

図 1 ヘテロシグマ属
プランクトン

担当 千葉県水産総合研究センター
東京湾漁業研究所
電話 0439-65-3071
FAX 0439-65-3072